

研究課題	日本の公立小学校における英語とダンスの教科横断的授業実践		
氏名	志野 文乃	所属 人文社会科学系 外国語・外国文化研究講座	職名 特任講師
APRIN e-ラーニングプログラムの受講 ☒ ←受講済の場合はチェックをすること			
【研究成果の概要】 （文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度） 本研究の目的は、小学校外国語（英語）教育とダンスを掛け合わせ、児童が自己を表現する楽しさや喜びを感じ、仲間とのコミュニケーションを豊かにできるような授業実践を行い、これを日本の小学校外国語教育に還元することである。本研究では、長年研究調査にご協力いただいている公立小学校において、2024年12月に英語とダンスを掛け合わせた教科横断的授業実践を行った。 本研究の結果、易しい英語と簡単なダンスを掛け合わせた教科横断的な授業実践の中で、1) 簡単な英語や、必要に応じて簡単な日本語での「言語的支援」の重要性、2) 絵やビデオ、ジェスチャー、デモンストレーション等の視覚補助や、3) 指示された動作に関連した音楽等による聴覚補助の「非言語的支援」の重要性を児童の反応を通して知ることができ、子どもたちがあらゆる情報を手掛かりにしながら自身の理解を深め、仲間とともに活動に取り組んでいることが分かった。 また、上記の支援を行いながら、曲の速度を緩め実際にやってみながら丁寧に振りや歌を確認することで、子どもたちの情意フィルターを低い状態にすることができる可能性が高く、「安全で信頼された」環境の中で安心して活動できることが、充実した言語学習に繋がると考えられる（Walqui and van Lier, 2010, p. 35, 筆者訳）。今後は、録画したビデオを更に分析し、児童の発話や、教師－児童および児童－児童のインタラクション、そして児童の動作や反応に関するマルチモダリティ（言語以外のモード）についても分析を深めたいと考える。 最後に、今回の授業実践には、特別支援学級の児童たちも参加をし、特にデジタル教材（モニターに表示された絵、写真、映像等の視覚補助）に興味を持って参加している様子が見られた為、今後、様々なバックグラウンドや特性を持つ児童たちがともに楽しむことができる外国語活動および外国語科の授業について更に探究することができればと考える。 本研究の調査をもとに、より効果的な教育実践および教師教育に関する提案をし、小学校における外国語教育に貢献したいと考えるため、学会（2025 KOTESOL International Conference, 2025年5月、ソウル）にて1本の研究発表を行い、1本の学術論文を投稿予定である。また、2025年3月に東京学芸大学で行われた現職教員研修にて、本研究の調査結果報告および活動事例紹介を行った。			
【研究成果発表方法】 ◎Shino, A. (2025, May 10-11, accepted). <i>English education with dance in a Japanese primary school</i> [Paper presentation]. 2025 KOTESOL International Conference, Seoul, Korea. (発表確定) ◎Shino, A. (2025). English education with dance in a Japanese primary school. [Research-based paper]. <i>Korea TESOL Journal</i>. (執筆中) ◎志野文乃. (2025). 『英語×ダンスーやさしいダンスで英語に親しもう！ー』[研修資料]. 第6回小学校英語プロジェクト主催小学校英語研修. (配布済・添付提出)			

※発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入すること。

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。